

---

# 君と見た青い空

麻雛琥桃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君と見た青い空

### 【Nコード】

N5450BA

### 【作者名】

麻雛琥桃

### 【あらすじ】

初めて君と話したのは、一段と綺麗な青空が見れた夏の日でした。  
<あの頃にはもう戻れない>

「……あっちー」

八月のとある日。

自分は学校に来ていた。

理由は自分が文化祭実行委員という面倒くさい委員会に入ってしまったため、貴重な夏休みの時間を利用して様々な催し物を考えなくてはならなくなったのだ。

今日は文化祭委員全員が集まって考える日……なのだが。

自分の足は委員たちが集まるであろう教室ではなく、屋上の方に進んでいた。

自分と彼氏の翼はサボり常習犯といっても過言ではないくらい色々なことをサボっている。

今日は学校に翼が来ていないので一人だが、それでもサボることに決めた。

あつという間に屋上の扉の前に到着した。

勢いよく扉を開ける。

そこには先客がいた。

短い髪に透けるような白い肌の少女だった。

少女は自分に気付いたらしく、慌てていた。

自分はその少女の顔に見覚えがあった。

「ひよつとして、藤原<sup>ふじはら</sup>時<sup>とき</sup>湊<sup>みなと</sup>耶<sup>や</sup>さん？」

少女 時湊<sup>ときみなと</sup>耶<sup>や</sup>は驚いたような表情を見せた。

「どつどうして私の名前を……？」

「あはは、そりゃ同じクラスなんだから、名前と顔くらい自然と覚えられるよ」

自分はさりげなく嘘をついた。

自分のクラスメイトの名前の大半を実はあまりよく覚えていない。興味の無い人間は覚えられない主義なのだ。

「まあ、そうですね」

「えへへ、ちなみに私の名前は分かる？」

「空乃小鳥ソノトさん。ですよね」

「そーそー当たり前」

興味のある人間に自分の名前を覚えられていたなんて、嬉しいことこのうえない。

「あつ、私、邪魔ですよね」

「いやいや全然。むしろ一人だと寂しいなあーと」

「えと……じゃあ、私はここにいてもいいんですか？」

「うん、もちろん！」

蒔渥耶は嬉しそうに顔を綻ばせた。

よしよし。なんとか好印象を与えられたようだ。

「空好き？」

「ええ。好きですよ」

「私さ、一回でもいいから空を飛んでみたいんだよね」

翼に言つと決まって呆れられる言葉を彼女にも投げかけてみた。

「……素敵な夢ですね」

その一言は自分にとってたまらなく嬉しかった。

「そつそつかな。えへへ」

自分の夢を肯定してくれる人間にようやく出会えた気がした。

今日の空は雲一つない。一段と青くてとても綺麗な空だった。

まるで、自分の今の心の内を表現したかのような。

とても晴れやかな空だった。

どれだけ悔やんでも

あの日にはもう、戻れない

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5450ba/>

---

君と見た青い空

2012年1月14日23時53分発行